

造園設計のスキルアップを目指して ～造園デザインコンクールへの応募～

1. はじめに

これまで高等学校や本校で勉強してきたCADソフトや設計技術を用いて最初から最後まで自分の力のみで設計をしてみたいと思い、造園デザインコンクールへの応募を決めた。また、卒業後造園設計の仕事に就くため、就職後の即戦力となれるように自分のスキルアップを図りたいと考えた。

2. 愛知県造園デザインコンクール 住宅庭園部門

応募までの手順は、設計条件→事例調査→コンセプトの決定→ゾーニング→設計→植栽選定→パース作成→ポスター作成である。

コンセプトは「集まる庭」とした。今回の課題の広い敷地と間取りを見て、各掃き出し窓から家族が集まりくつろげるような庭にしたいと考えたため、このようなコンセプトとした。

敷地に2台分の駐車スペースを設け、乗降がしやすくなるよう7000mm×6500mmとゆとりを持たせた広さに設定した。

アプローチはポーチと意匠を合わせてタイル舗装とした。また、シンボルツリーとしてヤマボウシを植栽する計画とした。

主庭には大きなウッドデッキを設け、一家だんらんの間とした。舗装部分は幅員が広いので、テーブルやベンチを置いて友人を招く場として活用できる。全体を曲線で構成させることで柔らかい雰囲気に仕上げた。平面図はVector Worksと手書きで作成した。着色にコピックを使用したことにより、鮮やかで目を引く図面になった。(図-1)

パースはR I K CADを使用して作成した。実際のエクステリア製品を使用するなどしてイメージが湧きやすくなるよう工夫した。手書きよりリアルでイメージが湧きやすいため、便利だと感じた。(図-2)

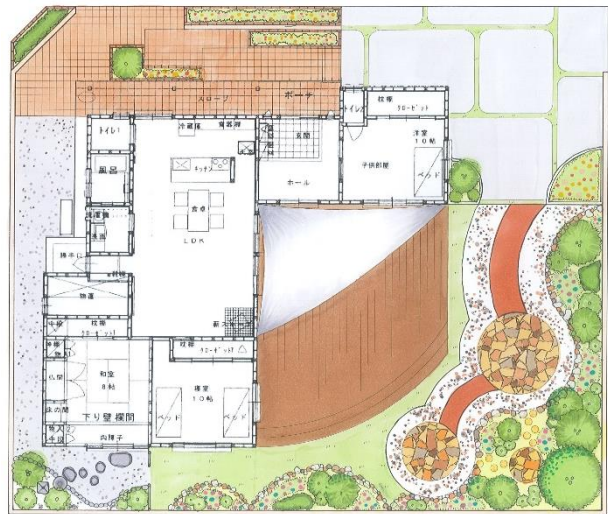


図-1 住宅庭園平面図



図-2 住宅庭園パース

3. 全国造園デザインコンクール 商業施設部門

応募までの手順は住宅庭園の時と同様である。

コンセプトは、「人と自然をつなぐ～清流広場～」とした。このコンセプトにした理由は、2年間過ごしてきた岐阜県をモチーフにしようと思ったためである。また、商業施設緑化はオフィ

スワーカーをメインターゲットとしたモダンなデザインのものが多いため、今回は、家族連れや高齢者をメインターゲットに温かみのあるナチュラルな雰囲気緑化にしようと思った。

主に3つのゾーンに分け、里ゾーンと山ゾーンを川ゾーンがつなぐ配置にした。

里ゾーンは屋根部分を緑化した四阿を設置。舗装部分を人工木材とすることで木材の温かみを感じられつつ、管理のしやすさに配慮した。また、棚田風の花壇が懐古的な雰囲気を演出する。

山ゾーンはクスノキを囲むように配置された階段をあがるとプラザ全体が見渡せる展望デッキへと辿り着く。展望デッキ北部分には滝流れがあり、水の音を楽しむことができる。

川ゾーンはプラザの大部分を占めるため、ゴムチップ舗装とした。主に青色を使用し川のように見せ、各所に配置された魚の舗装が遊び心と奥への探求心をくすぐる。乱張り舗装や洗い出し舗装を長方形にデザインしたことで橋をイメージさせ曲線の川部分と対照的でメリハリが出る。(図-3)

パースはVector Worksで骨格部分のみを3Dで作り、印刷したものをトレースして作成した。(図-4)

4. まとめ

今回デザインコンクールへの応募を通して、造園設計技術のスキルアップを図ることができたと思う。

Vector Worksを使用した設計では、これまでの講義で学んだレイヤー分けや3D機能などを活用して設計をすることができた。レイアウトの際、植栽凡例や引き出し線をこれまでの

知識や経験を使い見やすく作成することができた。しかし、断面図などは時間とレイアウトの都合上割愛してしまったため、機会があれば挑戦してみたいと思う。また、今回は細かい部分を手書きで仕上げたのだが、手書きの方が温かみを出せたため、良かったと思う。

R I K C A Dを使用した設計では操作を思い出すのに時間がかかってしまったが、完成までは当初予定していた時間より早く出来上がったため良かったと思う。実際のエクステリア製品を使用して、よりリアルなイメージになるようにしたり、人物のオブジェクトを配置してサイズ感を分かりやすくしたりなど、インターンシップで学んだことを活かせたので良かったと思う。しかし、レンダリングの太陽の当て方やライトアップを利用した夜間の風景など改善の余地もいくつか見つかったため、今後の設計に活かしていきたい。



図-3 商業施設平面図

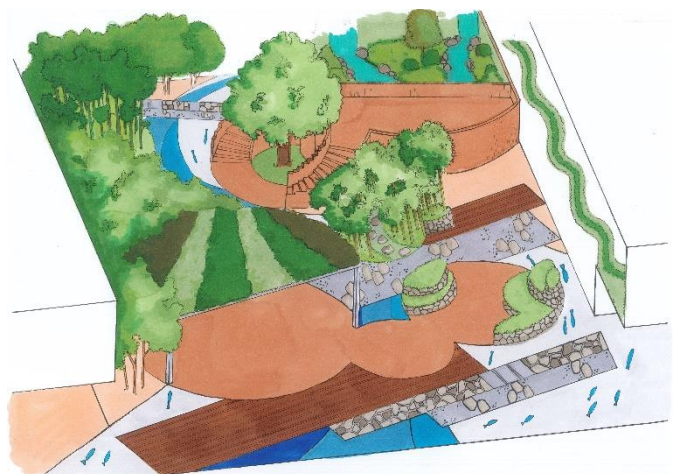


図-4 商業施設パース